

令和5年度関東高等学校男子バスケットボール大会
兼 第77回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会
＜Bブロック準決勝＞

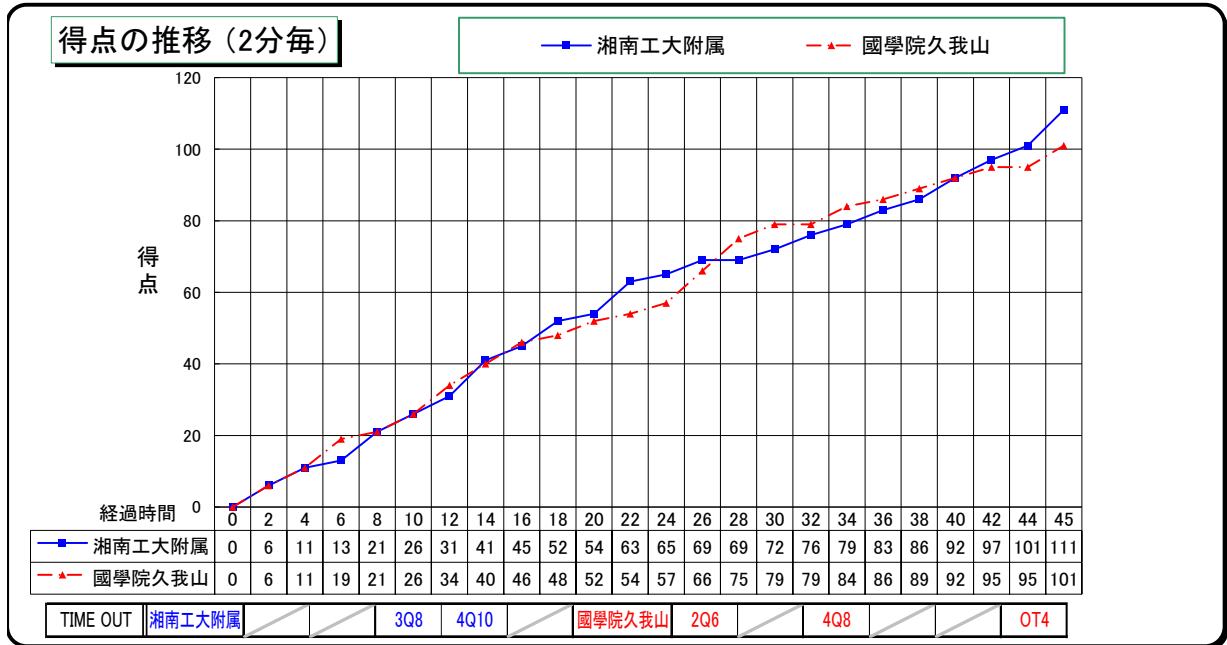
令和5年6月4日(日)	アダストリアみとアリーナ	大会2日目	Aコート	第1試合 9:30～	
<チームA> 湘南工大附属 神奈川		111 { 26 1Q 26 28 2Q 26 18 3Q 27 20 4Q 13 19 OT 9 }		<チームB> 國學院久我山 東京	

主審: 梶 崇司 (栃木) 第1副審: 箱石 拓也 (埼玉) 第2副審: 土田 康隆 (茨城)

S	No	選手名	得点	3P		2P		FT		F	リバウンド		アシスト
				成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	
○	0	竹内 快成	16	3	5	3	5	1	2	1	4	4	
◎	3	米山 莉生	35		3	14	28	7	7	2	1	4	
	4	山田 哉登											
◎	5	脇 明佑斗	11	1	1	3	5	2	4	1	4	1	
	8	鎌田 倅明											
○	10	石川 葵	1			1	1	2	3			3	
	13	座間 大飛											
◎	14	木村 怜嗣	7			2	9	3	4	2	5	5	1
	15	楠原 史悠											
	18	宮崎 史弥											
	20	皆川 晴											
	32	シライ レネ											
◎	38	穂谷野 駈	20	2	6	7	17			2		5	2
◎	91	オディギェ プレシャス恵	21	2	6	6	9	3	9	3	5	7	1
	00	川口 湧正											
		コーチ 今野 雄三											
合計			111	8	21	35	74	17	28	14	15	29	4

S	No	選手名	得点	3P		2P		FT		F	リバウンド		アシスト
				成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	
◎	4	川端 一真	12	2	11	3	7			5	1	2	6
◎	5	石井 友人	20			8	16	4	7	1	3	2	
◎	6	板倉 颯士	20	4	7	4	8		2	3		4	2
◎	7	村田 桂次郎	34	6	10	8	14			4	2	9	3
	8	川村 歩											
	9	石水 怜											
	10	藤田 廉											
○	11	澤木 優	3	1	2		1			2			1
○	12	鈴木 煌汰									2		
○	13	川上 新心	10			5	11		2	4	2	6	1
	14	鈴木 成連											
	15	北澤 太輝											
◎	16	安藤 空	2		1	1	1			2			
	17	井上 蒼太											
	18	伊東 龍生											
		コーチ 酒井 良幸											
合計			101	13	31	29	58	4	11	21	10	23	13

◎:スターター ○:出場 / 3P:3点シュート / 2P:2点シュート / FT:フリースロー / F:パーソナルファウル



戦評 記入者: 鈴木 岳史

令和5年度関東高校男子バスケットボール大会Bブロック準決勝、湘南工科大学付属高校(以下、湘南工大)vs國學院大学久我山高校(以下、久我山)
第1Q、両チームともにディフェンスはハーフコートマンツーマン。#38穂谷野のジャンパーで先制した湘南工大はその後も2本のジャンパーを決め、対する久我山はベネトレイトからインサイド#5石井への合わせで対抗。さらに中盤には3連続3Pで攻勢をかける。それでも果敢に攻める湘南工大は#38穂谷野がジャンパーやドライブイン、アシストでオフェンスを引っ張る。残り2分頃から1-2-1ゾーンプレスを展開した湘南工大が#91オディギェのバスケットカウントや#0竹内の3Pで加点するが#7村田がドライブイン、3Pで得点した久我山が追いつき、26-26の同点で第1Q終了。
第2Q、早々に#7村田が3Pを決めた久我山に対し、1-2-1ゾーンプレスを継続する湘南工大は序盤#0竹内が2本の3Pとジャンパーを決め、応戦。ドリブルとパスを上手く使い分けプレスを回避する久我山は#5石井と#13川上がインサイドで身体を張り、粘り強く戦う。互いに譲らぬ展開が続く中、湘南工大は#3米山が積極的に仕掛け2本のジャンパーとフリースローを決めると、さらに#0がジャンパーを成功。両チームが高確率でシュートを成功させる一戦は、湘南工大が54-52とワンポゼッションリードで前半終了。
第3Q、リード拡大を図る湘南工大は、#3米山がオフェンスを牽引。さらにスティールからのファストブレイクが連続で決まり、リードを10点に広げる。これ以上離されたくない久我山は#5石井がインサイドで奮闘を続けるとともにディフェンスの強度をアップして湘南工大オフェンスを苦しめると、徐々に攻守の切り替えが速くなる。さらに前半からベネトレイトや3Pなどでオフェンスを牽引していた#7村田が内外問わず多彩な得点パターンから得点。クォーター終盤にはスティールから連続となる2本のファストブレイクでレイアップを決め、72-79と久我山が7点のリードを奪い返して第3Q終了。
第4Q、巻き返しを図る湘南工大は、ディフェンスへの意識を高め直すダブルチームや徹底したシュートチェックで久我山オフェンスにプレッシャーをかける。攻めでは#3米山を中心に久我山ディフェンスに積極的に切り込む。残り3分10秒、#38穂谷野の3Pが決まり、ついに同点に。湘南工大を勢いに乗せたくない久我山はタイムアウト後に#6板倉#7村田の2本の3Pで徹底抗戦。しかし湘南工大も残り35秒で#3米山がジャンパーを決めタイスコアに。ラストプレーでウィニングシュートを狙った#3米山のシュート、オフェンスリバウンドを拾った#91オディギェのシュートが外れ、92-92で激闘は延長戦へ。
延長戦、湘南工大は#91オディギェが3Pを決めて先行。久我山もすぐさま#6板倉が3Pをヒットするが、ゾーンプレス・ハーフコートディフェンスともにプレッシャーをさらに強める湘南工大が久我山オフェンスを苦しめる。
第4Qに負傷した#38穂谷野が不在の中、#3米山がさらに一段オフェンスのギアを上げた湘南工大は攻めの姿勢も緩めず。ポーンスローを着実に決め、久我山の追撃を3本の3Pに抑えつつ延長戦でも19点を積み重ね、111-101で勝利。
両チームが序盤から高確率でシュートを沈めて互いに譲らず、延長戦までもつれ込んだ白熱の一戦は、高確率の長距離砲と粘り強いインサイドで奮闘しながら惜しくも敗れた久我山がBブロック3位となり、インテンシティの高いディフェンスから爆発力の高いオフェンスで最後の最後まで攻め続けた湘南工大が同日に行われる決勝戦進出を決めた。